



科学の眼

まなこ

発行: 姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話: 079-267-3961)
<https://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

生物シリーズ

中国から来たかぐや姫

タイワンタケクマバチ

Xylocopa tranquebarorum (Swederus, 1787)

姫路科学館 学芸・普及担当 宮下直也

■タイワンタケクマバチとは

タイワンタケクマバチ *Xylocopa tranquebarorum* (Swederus, 1787) (以下、タケクマ) は台湾、中国、インド原産の外来種 (元々分布しない地域に人為的に持ち込まれた生物) です。枯れ竹に営巣するため、竹製品の輸入に伴って日本にやってきたと考えられており、2006年に愛知県で発見されて以降、本州で分布を広げています。遺伝子解析の結果、日本に移入されたものはアジア大陸 (中国) の個体群であることが分かっています。在来のクマバチ *X. appendiculata circumvolans* Smith, 1873 は胸部が黄色い毛に覆われているのに対し、タケクマは全身が真っ黒なことが大きな特徴です (写真1)。

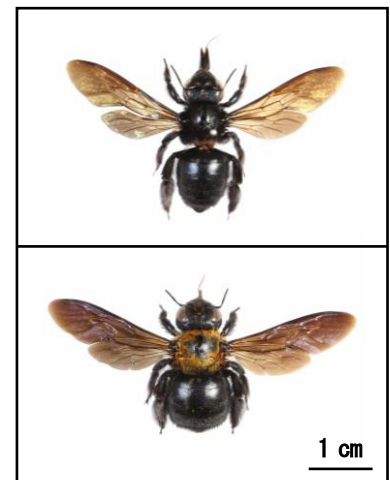


写真1 タイワンタケクマバチ
♀標本 (上)、クマバチ♀標本
(下)

*姫路科学館 HP でカラー写真をご覧いただけます。

■姫路科学館におけるタイワンタケクマバチの観察記録

姫路科学館の敷地内に、植栽の添え木として組まれた竹筒があります。2022年4月、その周辺で数個体のタケクマを確認・採集しました (右表)。また、竹筒に穴を開けて巣を作る様子が観察できました (写真2)。

同時期・同所的に複数のタケクマが確認されたことから、すでに科学館周辺にタケクマが定着している可能性があります。周辺は竹林が多く、たけのこの産地である太市地区と近いことから、

表 姫路科学館におけるタイワンタケクマバチの
観察記録 (2022年4月)

日	確認状況
18	1 個体採集
20	2 個体確認、穴 1 つ目開き始め
22	2 個体確認 (20 日と同一個体?)、穴 1 つ目貫通
25	4 個体確認 (最低 2 個体は初見)、穴 2 つ目開き始め
27	穴 2 つ目貫通
28	穴 3 つ目開き始め (途中で中止)

タケクマが分布を広げやすい環境と言えるかもしれません。

■台湾タケクマバチの巣の中をのぞいてみたら

穴の貫通を確認した2つの巣について、内部を観察するために巣を回収することにしました。タケクマは7月下旬以降に巣から新成虫が羽化するとされているので、ある程度巣の中の幼虫が育つまで放置しました。

2か月ほど経った後、穴から外側に顔を出している成虫が見えたので、もしや新成虫かと思い、慌てて巣の回収に踏み切りました。逃げられないように穴をテープで塞ぎ、巣のある竹筒の節をのこぎりで切断して巣を回収しました。

ニッパーと万力を使って慎重に2つの巣を割ってみると(写真3)、それぞれ母バチ(成虫)とその子ども(幼虫と蛹さなぎ)が見つかりました。母バチは巣内を薄い壁で育房(部屋)に区切り、その中に1個ずつ産卵します。穴から遠い育房ほど幼虫・蛹が成長していることから、奥から順に産卵したことが確認できます。いくつかの育房には黄色っぽい塊が入っていますが、これは幼虫の餌となる花粉団子で、産卵の際に母バチが作ったものです。

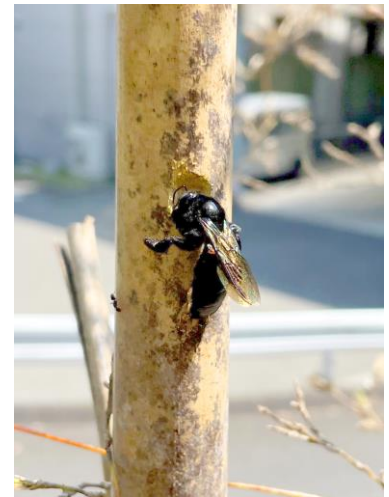


写真2 竹筒に穴を開ける台湾タケクマバチ(2022年4月20日)

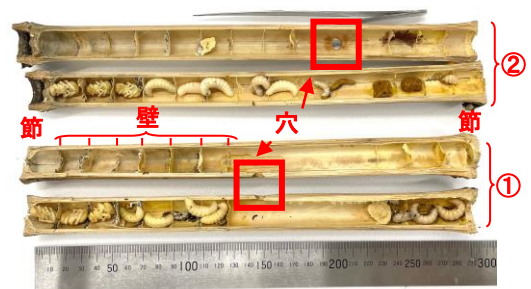


写真3 台湾タケクマバチの巣の断面(2022年6月24日回収)

■兵庫県における台湾タケクマバチの分布

兵庫県におけるタケクマの分布について調べたところ、尼崎市、小野市、明石市、西宮市、赤穂市、加古川市、神戸市、加西市、宝塚市で文献記録が確認できました。これに姫路市を加えると、県内10市に記録があることとなります(右図)。兵庫県の日本海側ではまだ見つかっていませんが、北陸や山陰でも記録があるため、すでに兵庫県の全域に分布している可能性があります。

姫路市では今回の発見に加えて、姫路科学館で開催した「第5回生物多様性写真展『ひめじのいきもの』」にタケクマ(2021年7月 姫路市御国野町 撮影)の投稿がありました。姫路市内の詳細な分布状況が気になるところです。みなさんも黒いクマバチを気に留めて観察してみてください。

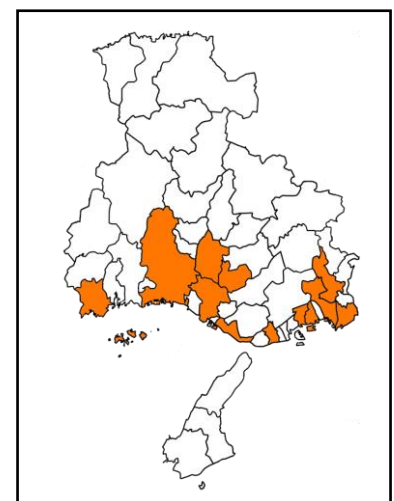


図 兵庫県における台湾タケクマバチの分布(色付きが分布地、2022年7月現在)

■参考文献

山岸健三、佐々木隆行、加藤真梨奈(2018) 名城大学農学部学術報告 54, 7-16.
上森教慈(2018) きべりはむし 41(1), 31.
川添和英(2019) なごやの生物多様性 6, 29-31.
柴田剛(2020) きべりはむし 43(2), 55.

吉田浩史(2021) きべりはむし 44(1), 102-103.
柴田剛(2021) きべりはむし 44(2), 50.
宇野宏樹(2021) きべりはむし 44(2), 51.